



ウェブメールIMAP

ウェブメールIMAPとは・・・

IMAPメールサーバーに対応したメールの管理ができる機能です。

IMAPではメール情報はサーバー上で管理されるため、グループウェア上にはメールデータは蓄積しません。

複数の端末から利用しても既読の状態や送信メールなど、同じ状態のメールを読むことができます。

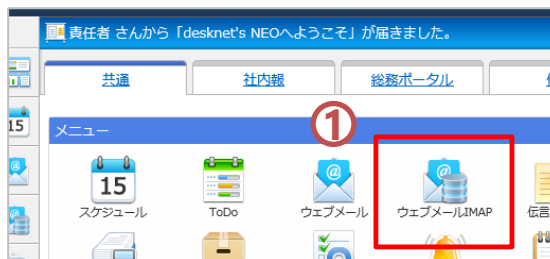
ウェブメールIMAP 目次

1. ウェブメールIMAPの管理者メニュー (P2)
2. ウェブメールIMAPの機能管理者を設定する (P4)
3. メールサーバーを設定する (P5)
4. メールのダウンロードを制限する (P6)
5. ウェブメールIMAPの共通設定を設定する (P7)
6. 誤送信防止機能を設定する (P10)
7. 各ユーザーのメールアカウントを設定する (P12)

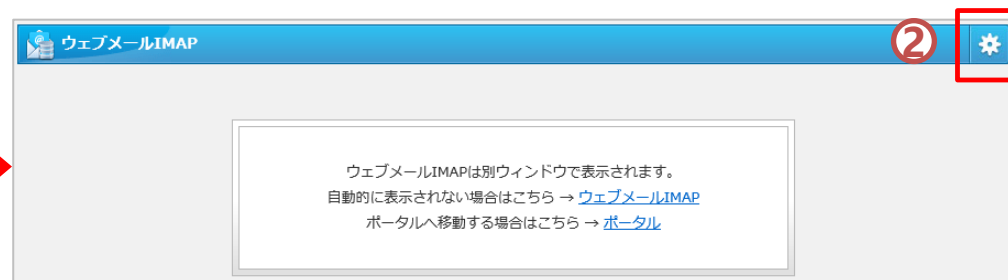
1.ウェブメールIMAPの管理者メニュー (1 / 2)

① [ウェブメールIMAP]のメニューをクリックすると、ウェブメールIMAP画面が別ウィンドウで表示されます。

※ブラウザのポップアップブロック機能によりブロックされる場合がありますので、ブラウザの設定にてポップアップを許可してください。



② ウェブメールIMAPの管理者設定メニューは、元の画面の右上の歯車アイコンをクリックすると表示されます。



次ページ

別ウィンドウ



1.ウェブメールIMAPの管理者メニュー（2 / 2）

システム管理者、またはウェブメールIMAP機能の機能管理者でウェブメールIMAP機能を開き、右上の歯車アイコンをクリックすると、管理者の設定メニューが表示されます。

※ウェブメールIMAP画面ではなく、元のグループウェアの画面となります。



▼【機能管理】

アカウント設定

▼【システム管理】

設定状況

共通設定

管理者設定

メールサーバー設定

メールダウンロード設定

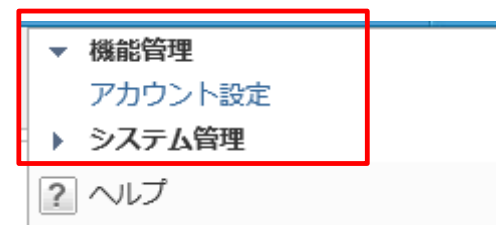
▼【誤送信防止】

誤送信防止設定

送信先ホワイトリスト設定

※機能管理者

※システム管理者



※【システム管理】はシステム管理者のみ設定可、
【機能管理】はシステム管理者および機能管理者のみ設定可。

2.ウェブメールIMAPの機能管理者を設定する

機能管理者に設定されると、ウェブメールIMAPの[機能管理]メニューを操作できるようになります。

機能管理者は、ウェブメールIMAPの各ユーザーのアカウント設定の管理が行えます。

- ① 設定はユーザー単位、またはロール単位に付与できます。
- ② 管理者設定の一覧からチェックボックスにチェックを入れたユーザー/ロールを除外します。

■[システム管理]>[管理者設定]

ウェブメールIMAP > システム管理 設定機能：ウェブメ

変更

管理者設定 ① ②

ユーザー／ロール選択

選択を解除

☐ ユーザー／ロール	所属組織
☐  山田太郎	全社, 東日本営業部, 東京本社
☐  伊藤守	全社, 営業本部, 東京本社
☐  小野拓也	全社, 東日本営業部, 東京本社
☐  田中大輔	全社, 西日本営業部, 大阪支社

3.メールサーバーを設定する

ウェブメールIMAPで使用するメールサーバーを設定します。

- ①受信メールサーバー名、ポート番号、通信の保護を入力します。
- ②送信メールサーバー名、ポート番号、通信の保護を入力します。
- ③POP before SMTPや、SMTP認証、XOAUTH2認証の選択ができます。
メールサーバー側で設定されている場合は、こちらを設定してください。
- ④メールサーバーへのログオンの失敗を、何秒まで待機するかを設定します。
- ⑤デフォルト値が入力されていますが、ご利用のIMAPメールサーバーでのフォルダ情報を設定します。
- ⑥SORTコマンドの使用有無を設定します。
※通常はチェックを外してご利用ください。

■[システム管理]>[メールサーバー設定]

メールサーバー設定

①

受信メールサーバー :
(IMAP)

サーバー名 :

ポート番号 : ※ 通常は143で設定します。

通信の保護 :

②

送信メールサーバー :
(SMTP)

サーバー名 :

ポート番号 : ※ 通常は25で設定します。

通信の保護 :

[▶ STARTTLS通信時の認証について](#)

③

メール送信時の認証 :

☐ 認証しない

☒ SMTP認証

認証方式 :

※ この値を選択した場合、メール送信の際にSMTP認証を行います。

☐ XOAUTH2認証

OAuth認可サーバー :

※ この値を選択した場合、メール送信の際にXOAUTH2認証を行います。

④

サーバータイムアウト(秒) :

⑤

ルートフォルダ :

送信トレイフォルダ名 :

ゴミ箱フォルダ名 :

下書きフォルダ名 :

⑥

メール一覧の取得方法 :

☐ SORTコマンドを使用しない。

※ 通常はチェックを外してご利用ください。

※ チェックした場合、IMAPサーバーがSORTコマンドに対応していても、強制的にSORTコマンドを使用せずにメール一覧を取得します。

4.メールのダウンロードを制限する

メールデータをクライアントPCにダウンロード保存することができ、そのダウンロード機能を制限します。

※全ユーザーが対象となります。

① ユーザーにダウンロード機能を使用させるかを設定します。

② 1回でダウンロードできる合計サイズを設定します。

※1～1024の値を入力してください。

③ 1回でダウンロードできるメールの総件数を設定します。

※1～1000の値を入力してください。

■[システム管理]>[メールダウンロード設定]



ウェブメールIMAP > システム管理 設定機能: ウェブメール

変更

メールダウンロード設定

①	ダウンロード機能	許可する ▼
②	メールの総サイズ(*)	1024 MB ※ ダウンロードするメールの合計サイズの最大値を設定します。 ※ 1～1024の値を入力してください。
③	メールの総数(*)	1000 ※ ダウンロードするメールの最大数を設定します。 ※ 1～1000の値を入力してください。

※ (*)は必須項目です。

5.ウェブメールIMAPの共通設定を設定する（1 / 3）

①ウェブメール画面のレイアウトを設定します。

- ・3ペイン（本文プレビューあり）
- ・2ペイン（本文プレビューなし）

②メール参照画面に表示する本文の文字数を設定します。

※スパムメール対策として、30,000文字、または50,000文字の設定を推奨します。

③受信したHTMLメールを本文に表示するか、添付ファイルとして表示するかを設定します。

④メールを既読にする条件を設定します。
チェックすると、プレビュー画面にて最終行を表示したときに既読になります。
秒数を入力すると、メールを表示してから入力した時間が経つと、自動で既読になります。

⑤メールの署名を本文の先頭、または末尾に挿入するかを設定します。

■[システム管理]>[共通設定]

ウェブメールIMAP > システム管理

設定機能：ウェブメールIMAP

変更

共通設定

1ページの表示件数：100件

※ この値はデフォルト値で、ユーザー個別に変更できます。

① メール画面のレイアウト：3ペイン(本文プレビューあり)

※ この値はデフォルト値で、ユーザー個別に変更できます。

② 本文表示文字数：30,000文字

③ HTMLメール本文の表示形式：HTML形式(基本表示)

※ 「テキスト形式」とした場合、HTMLメールを構成するHTML部分とテキスト部分のうち、テキスト部分のみを参照画面に表示します。テキスト部分が存在しないHTMLメールの場合、参照画面には何も表示されません。

※ 「テキスト形式」とした場合、HTML部分は添付ファイルとして表示します。

※ 「HTML形式(基本表示)」とした場合、HTMLメールを構成するHTML部分のうち表示に不要な部分を削除・調整し出力します。

注) HTML部分が正しい構成ではない場合(例：BODYタグが複数存在する、タグの使用方法が正しくない等)は本文の一部が正しく表示されない可能性があります。

※ 「HTML形式(オリジナル表示)」とした場合、HTMLメールを構成するHTML部分をそのまま出力します。

「本文表示文字数」に「無制限」以外が設定されている場合、「HTML形式(基本表示)」とした場合と比べ本文に表示される情報量が少なくなる場合があります。

注) セキュリティの脅威となるタグや表示については削除されますが、HTMLの構成がそのまま表示されます。表示するHTMLメールによりましてはdesknet's NEO全体および一部の画面が正しく表示されない可能性があります。

④ 既読にする条件：☒ 最終行が表示されたら既読にする

メールを表示してから既読にするまでの時間(秒)：

※ 「メールを表示してから既読にするまでの時間」が未入力の場合、自動では既読になりません。

※ この値はデフォルト値で、ユーザー個別に変更できます。

⑤ 署名の挿入位置：☐ 挿入しない ☐ 本文の先頭 ☒ 本文の末尾

※ メール作成画面を開いた際に、自動的に本文に署名を挿入します。この時の挿入位置を設定します。

※ この値はデフォルト値で、ユーザー個別に変更できます。

5.ウェブメールIMAPの共通設定を設定する（2／3）

①メールを転送する際、元のメールを本文に含めるか、ファイルとして添付するかを設定します。

②返信の際に、元のメールを引用するかを設定します。

③元のメールの宛先を、返信時の[宛先]に含めるか、[CC]に含めるかを設定します。

④送信時に、メール本文を自動改行するかを設定します。

⑤送信したメールを、送信トレイに保存するかを設定します。
通常は[保存する]を設定します。

⑥[許可する]とした場合、メール作成画面にて、[宛先]、[CC]、[BCC]の間をドラッグ&ドロップでメールアドレスが移動できるようになります。

⑦[表示する]とした場合、保存期間を過ぎた受信トレイのメールを削除するかどうかの確認画面が表示されます。

■[システム管理]>[共通設定]

署名の挿入位置：☐ 挿入しない ☐ 本文の先頭 ☒ 本文の末尾
※ メール作成画面を開いた際に、自動的に本文に署名を挿入します。この時の挿入位置を設定します。
※ この値はデフォルト値で、ユーザー個別に変更できます。

① 転送方法
※ この値はデフォルト値で、ユーザー個別に変更できます。

② 返信方法 ☒ 元のメール本文を引用する
引用符：
※ この値はデフォルト値で、ユーザー個別に変更できます。

③ 全員へ返信時の宛先
※ この値はデフォルト値で、ユーザー個別に変更できます。

④ 送信時の本文の自動改行 ☐ メール本文を自動的に改行する
行の文字数：
※ 30～250の値を入力してください。

⑤ 送信済みメールの保存
※ この値はデフォルト値で、ユーザー個別に変更できます。

⑥ メール宛先の移動 ☒ 許可しない ☐ 許可する
※ 「許可する」とした場合、メール作成画面、アドレス帳選択画面にてメールアドレスをドラッグ&ドロップで「宛先」「CC」「BCC」間を移動できます。
※ この値はデフォルト値で、ユーザー個別に変更できます。

⑦ 保存期間を超えた受信メールの削除確認
※ 保存期間が過ぎた受信トレイのメールを削除するかどうかの確認画面を表示します。
※ この値はデフォルト値で、ユーザー個別に変更できます。
注)確認画面を表示しない場合、保存期間が過ぎた受信トレイのメールは完全に削除されます。

5.ウェブメールIMAPの共通設定を設定する（3 / 3）

①フィルタ機能による、メールの自動転送を制限します。

②HTMLメールの作成を許可するかを設定します。
[許可しない]とした場合、HTML形式の署名も作成できません。

③各ユーザーがメールアカウントを設定しても良いかを設定します。
[許可しない]とした場合、管理者のみアカウントが管理でき、一般ユーザーはアカウントの管理ができなくなります。

④[表示する]とした場合、ウェブメールIMAP画面の右上に使用率が表示されます。
※容量設定に関しては、メールサーバー側で設定してください。
※ご利用のメールサーバーによっては、この設定が使用できない場合もあります。

■[システム管理]>[共通設定]

保存期間を超えた :	表示する ▼
受信メールの削除確認	※ 保存期間が過ぎた受信トレイのメールを削除するかどうかの確認画面を表示します。 ※ この値はデフォルト値で、ユーザー個別に変更できます。 注)確認画面を表示しない場合、保存期間が過ぎた受信トレイのメールは完全に削除されます。
① フィルタによる自動転送	許可する ▼
② HTMLメールの作成	許可する ▼ ※ 「許可しない」とした場合、HTMLメールの作成、およびHTML形式署名の作成、変更、使用はできません。
③ 個人毎のアカウント設定	許可する ▼
④ メール容量の使用率	表示しない ▼

6.誤送信防止機能を設定する（1 / 2）

- ①メールを送信する直前に、宛先や、内容を確認するための画面を表示するかどうかを設定します。
[すべての入力内容をチェックするまで送信しない]を選択すると、メール送信前に、各項目にチェックボックスが表示されるようになり、全てチェックを入れるまでメール送信できないようになります。
- ②確認画面にどの項目を表示するかを選びます。
- ③ウェブメールIMAP> システム管理> 送信先ホワイトリスト設定で設定されているメールアドレスやドメインをチェックの対象外とすることができます。
- ④[警告を表示する、件数：5件]と設定した場合、メールを作成するときに、宛先欄に5件以上のメールアドレスを指定すると、メールの送信確認画面に赤字で、BCCの使用を推奨するメッセージが表示されます。
- ⑤誤送信防止設定を、個人ごとに行ってよいかを設定します。
- ⑥送信の取り消し機能を有効とするかを設定します。
有効とした場合、時間(秒)を指定することで、メール作成画面で送信ボタンを押してから、その時間内であればメールの送信を取り消すことができます。

■[システム管理]>[誤送信防止設定]

誤送信防止設定

①

メール送信前の確認：

☐ 行わない
☐ 行う(入力内容は表示しない)
☐ 行う(入力内容を表示する)
☒ 行う(すべての入力内容をチェックするまで送信しない)
※ 確認画面に表示される各入力内容すべてをチェックするまで送信できません。

②

対象とする項目：

☐ 差出人 ☒ 宛先 ☒ CC ☒ BCC ☐ 重要度 ☐ 開封確認 ☐ 言語
☒ 件名 ☒ 本文 ☒ 添付ファイル
※ 「行う(入力内容を表示する)」又は「行う(すべての入力内容をチェックするまで送信しない)」が選択されている場合のみ有効。

③

ホワイトリストに該当するアドレスの扱い

☒ チェックを免除する ☐ チェックを免除しない
※ 「行う(すべての入力内容をチェックするまで送信しない)」が選択されている場合のみ有効。

④

大量アドレスへの送信警告

☒ 警告を表示する ☐ 警告を表示しない
 大量アドレスとする件数：5
※ 「警告を表示する」とした場合、大量アドレスとする件数以上のアドレスが「宛先」「CC」に指定されている場合に警告を表示します。
 ※ 「行う(入力内容を表示する)」又は「行う(すべての入力内容をチェックするまで送信しない)」が選択されている場合のみ有効。

⑤

個人毎の設定変更

☒ 許可する ☐ 許可しない
※ 「許可する」とした場合、ユーザー個別にメール送信前の確認設定を変更できます。

⑥

送信の取り消し：

☒ 送信の取り消し機能を有効にする
 取り消せる時間(秒)：5

個人毎の： ☒ 許可する ☐ 許可しない
 設定変更 ※ 「許可する」とした場合、ユーザー個別に送信の取り消し設定を変更できます。

6. 誤送信防止機能を設定する（2 / 2）

① メール送信前の確認画面で、チェックを免除したメールアドレスを登録します。

※免除を行う場合は、併せてウェブメールIMAP>システム管理>誤送信防止設定の画面にて、[ホワイトリストに該当するアドレスの扱い]で[チェックを免除する]を選択してください。こちらは、本書の前ページ（10ページ）の③項目が該当します。

■[システム管理]>[送信先ホワイトリスト設定]

送信先ホワイトリストの追加

①

送信先アドレス(*) : @example.jp

備考 : 自社のメールアドレスをチェック対象から除外する

※ (*)は必須項目です。

7.各ユーザーのメールアカウントを設定する

①対象ユーザーにチェックを入れ、[利用させる]、[利用させない]ボタンにて、ユーザー個別にウェブメールIMAPの利用を制限できます。

②ユーザー名をクリックすると、そのユーザーのアカウント設定画面が表示されます。

※ 1ユーザーにつき、1アカウントまでの追加となります。

③[氏名]と[メールアドレス]を入力します。
メール送信する際、メールの送信元としての表示は、“氏名<メールアドレス>”の形式となります。

④受信メールサーバー情報を入力します。

■[機能管理]>[アカウント設定]

